学校統廃合地域説明会　記録

日　時	令和６年 10 月 19 日（土）10:00～12：00	場　所	大里コミュニティセンター大集会室

（内容）

発言者	発言内容
市職員	１　開会 ２　挨拶（教育次長） ３　説明 本日はお配りさせていただきましたＡ４横書きの「学校の統廃合について」及びＡ４縦１枚の「学校統廃合計画の見直しについて」の２種類の資料に基づいて、熊谷市における学校統廃合計画の考え方と今後の方針について、説明をさせていただきます。なお、Ａ４横の「学校の統廃合について」の資料は、以前の説明会などでも使用している部分がありますが、今回、初めて御覧いただく方も多いと思いますので、改めて御説明いたします。 それでは説明に入らせていただきます。 まずはＡ４横の「学校統廃合について」の資料の１ページをお願いします。 日本の全国的な傾向として、戦後に２度のベビーブームと呼ばれる時期があり、子どもの人口が大きく増える時期もありましたが、その後は一貫して少子化が進行しており、大都市など一部の地域を除いて、児童生徒数も減少が続いています。熊谷市でも、ほぼ全ての学校で児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいる状況であり、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。 小規模の学校では、 ・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・児童・生徒に目が届きやすい。 などのメリットがある一方で、 ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・人間関係や相互の評価が固定されやすい。 などの課題も懸念されています。 こうした課題を踏まえ「少子化に対応した、活力ある学校づくり」について検討することと合わせて、必要な対策を継続的に実施することが、市町村に求められているところです。 そこで熊谷市では「子どもたちによりよい教育環境を用意することで、バランスの良い確かな学力を身に付けてもらう」ことを目指して「学校規模の適正

	化」に取り組むこととし、平成３０年１１月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定しました。 　この方針では、学校の規模を適正に保つための方策の一つとして「学校統廃合」の推進を掲げています。 　右の表を御覧ください。 　基本方針では、「学校規模」、「通学距離」及び「学校統廃合等」の「基準」を示しており、「複式学級の編成」が見込まれる場合は「直ちに、学校統廃合等の適否について検討する」こととしているほか、小学校では「全学年で単学級」、中学校では「全学年で２学級以下」となることが見込まれる場合にも、児童・生徒数の動向に注視しつつ、学校統廃合等の適否について検討する、こととしています。 　なお、複式学級とは、国の定める学級編成基準に照らして、２つ以上の学年を合わせても、定められた人数以下となる場合に、当該２つ以上の学年の児童・生徒で１つの学級を編成するものです。 　複式学級を編成する基準は、小学校の場合、１年生を含む場合は８人以下、２年生以上の場合は１６人以下となっています。また、中学校の場合は、学年に関わらず、合計して８人以下となっています。 　複式学級が編成されますと、１学級の中に違う学年の児童・生徒が在籍することとなります。通常学級とは異なる編成のため、学級運営面で工夫が必要となり、また、授業では一定の制約が生じるものと考えられます。 　２ページをお願いします。 　上の部分に「熊谷市個別施設計画（学校施設編）」とあります。この計画の中には、学校の規模を適正に保つための学校統廃合の予定や、学校環境をよりよく保つための施設改修・更新等の予定などが記載されています。 　次に、左側の表を御覧ください。ここには、先ほどご説明しました「個別施設計画」に記載されている様々な事項のうち、学校統廃合の予定、案の部分を抽出して記載しています。 　表の一番上、成田小と星宮小は、令和５年４月の統合により「熊谷市立成田星宮小学校」として開校しています。 　次の段の、男沼小・太田小・妻沼南小は、令和７年４月に統合され、「熊谷市立妻沼西小学校」として開校する予定であり、その下の長井小と秦小は、令和９年４月の統合に向けた準備を進めているところです。 　統廃合計画の案としては、この他に小学校と中学校で各６つの組み合わせを提案しています。 　次に、資料の右側を御覧ください。 　統合に当たっては、それぞれの学校の規模や経過年数に関わらず、対等な関係で統合を行い、新たな学校として設置することとしています。

	設置場所は、既存の学校施設を活用し、校地面積や校舎の状況などを勘案し、決定します。 通学方法としては、元の学区に小学校がなくなる地域は、原則スクールバスの利用、中学校については、自転車の利用を、それぞれ想定しています。 また、統合は新たな学校として設置することになるため、学校名なども新しいものになります。学校名も含め、校歌や校章など、具体的なことについては、新校設立準備委員会を立ち上げた後、学校や保護者、地域の皆様とともに協議・検討を重ね、決めていくこととしています。 ３ページをお願いします。 左側の「統廃合までの流れ」ですが、保護者や地域住民の皆様に、あらかじめ学校統廃合に関する説明を行い、御意見を伺った上で統廃合の検討を行います。 一番上の「公共施設再編方針案エリア別市民説明会」は、東西南北及び中央の５エリア別に、令和元年度に実施済みとなっています。 その下の「地域説明会」と「保護者説明会」は、随時行うこととしていますが、大里地域・吉岡地域については、市田小学校区を対象とした地域説明会のみ令和元年度に実施しています。 次に、右側の学校規模適正化の部分を御覧ください。 学校の規模を適正化することによるメリットとしては、 ・児童生徒を多様な考え方に触れさせることにより、集団の中でルールを学び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸ばすことができる。 ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができるとともに、人間関係の固定化を回避できる。 ・児童・生徒同士の人間関係や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。 など、学習生活面のメリットのほか、 ・経験、教科、特性などの面でバランスの取れた教員の配置を行うことができる。 ・ＰＴＡ活動等における保護者一人一人の負担が軽減できる。 など、学校運営の面でもメリットもあります。 実際に統合に向けた検討を進めていく段階においては、様々な課題が生じることも想定されますが、そうした課題が解消されたうえでの統合となるよう、丁寧に進めていくこととしています。 ４ページをお願いします。 熊谷市立小中学校の児童生徒数の推移と将来推計のグラフとなっていますが、冒頭にも触れたとおり、本市の児童・生徒数は減少傾向が続いています。

	１９８２年と２０１９年で比較しますと、いずれも約半数程度にまで減少しており、今後も減少していく見込みとなっています。 ５ページをお願いします。 こちらでは、現在までに統廃合を進めてまいりました各学校の紹介をしています。統合時期、学校の位置、校名などは、記載のとおりです。 通学の手段としては、従来の学区内に小学校がなくなる地域の児童を対象としてスクールバスを運行します。すでに開校している成田星宮小では４か所の乗降場所を設定し、２台のバスにより登下校しています。 また、妻沼西小では、乗降場所を１２か所設定済みであり、４台のバスにより登下校する予定です。 その下の表は、それぞれ、統合時における児童数、児童数見込みとなっています。 また、一番下に記載したとおり、統合の１年前までには、校名や通学方法、学用品など様々なことを決めておく必要がありますので、成田星宮小学校、妻沼西小学校いずれの場合も、統合予定の約３年前から時間をかけて準備を進めております。 次の６・７ページは、これまでの統合計画に際し、比較的多く寄せられた御質問に対する回答例を記載しておりますので、御確認ください。 ここまでが、熊谷市における、現時点の学校統廃合の方針や実際の統廃合計画及びその進捗などとなっています。 続きまして、今後の学校統廃合計画の方針について御説明いたしますので、A４縦１枚の「学校統廃合計画の見直しについて」を御覧ください。 「１　方針」にありますとおり、２０２９年度以降の学校統廃合計画について、表のとおり、統合予定年度を見直すこととしました。 具体的に申し上げますと、現行の計画では、吉岡小学校と市田小学校、吉岡中学校と大里中学校の統合を、２０２９年度に予定しておりましたが、今後の児童・生徒数の推計を踏まえ、２０３５年度から２０３９年度までの間の統合予定に見直しいたします。 同様に、ほかの学校の統廃合計画についても、今後の児童・生徒数の推計を踏まえ、統合予定時期を見直すこととといたします。 次に、今回、学校統廃合計画を見直すこととした経緯を御説明いたします。資料に記載はございませんので、お聞きいただければと思います。 まず、現在までに統合した学校、又は統合することが予定されている学校につきましては、現に複式学級が編成されている、又は近い将来、複式学級が編成される見込みとなっていることから、統廃合の検討を急ぐ必要がありまし

	た。 一方、２０２９年度以降に統廃合が予定されている学校につきましては、現在のところ、複式学級が編成される見込みはありません。 Ａ４横書きの資料でもご説明いたしましたが、「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」では、複式学級の編成が見込まれる場合、「直ちに学校統廃合等の適否について検討する」こととしておりますが、もうひとつの検討基準である、小学校における全学年単学級、もしくは、中学校における全学年２学級以下、となることが見込まれる場合は、「直ちに」統廃合を検討、とはしておりません。 このため、２０２９年度以降の学校統廃合計画については、現行の計画どおりに推進していく必要性は高くないものと考え、今回、見直しを行うこととしたものです。 ただし、小・中学校の小規模化は、今後も進行していくものと考えておりますので、今回の改定では統廃合計画自体は廃止とせず、統合予定年度のみを見直すこととしたものです。 資料にお戻りいただきまして、「２　今後について」を御覧ください。 今後、学校統廃合の方針、施設の利活用方針等を具体的に記載しております「個別施設計画（学校施設編）」を改定いたします。 なお、改定に向けた準備の一環として、１１月にはパブリックコメントの実施を予定しています。 パブリックコメントや本日の説明会での御意見等も参考にして、「個別施設計画」を今年度中に改定したいと考えています。 個別施設計画の改定後も、児童・生徒数の推移及び複式学級が編成される可能性に注視し、統廃合計画の推進再開時期の検討とあわせて、これまでの学校統廃合にかかる事業内容等を改めて検証してまいります。 資料の説明は以上となります。 ４　質疑・応答
市民	開校から３年前に様々な事項を協議し、決定すると説明を受けたが、スクールゾーンの設定や道路拡張などの予算を確保する期間としては短いのではないか？
市職員	統合準備の前段階として地域説明会などを３年より前に行い、内容を検討していきます。現在のところ統合の予定であり、実際に統合を進める段階になった際に期間を設け検討したいと考えています。
市民	制服も３年間で決めるのか？思春期なので、異なる制服となった場合は気にしてしまうのでは？中学校は小学校とは違うので、もっと時間を取ったほうが

	よいと思う。
市職員	これまで中学校の統廃合を行っておりませんので、方法などを十分検討して準備していきます。
市民	小規模の学校を分校として残す考えはないのか？
市職員	分校として残す検討はしておりません。
市民	通学距離６キロメートルまで中学生は自転車ということだが、これで決定なのか？また、６キロメートルというのは、直線なのか、実際に通学する距離か？
市職員	資料の説明はあくまで目安としての距離であり、今後、実際に統廃合を進めることとなった場合には、具体的な通学手段は、別途協議・検討することになると考えております。なお、６キロメートルは、直線距離の同心円状で想定しています。
市民	熊谷市は路線バスも多数走っている。公共交通を利用した通学は検討しないのか？
市職員	学区によっては、今後、そうした検討の可能性もあると考えます。
市民	吉岡中学校は大里中学校に統合する予定となっているが、ハザードマップでは、洪水などが起きたら大里中学校は浸水してしまうと思う。それでも吉岡の中学生は大里中学校に通うことになるのか？ このような背景があるのに大里中学校を残す理由は何か？
市職員	台風接近中など、洪水などが起こりそうな場合は登校させないなどの対応が想定されます。急な状況変化の場合、現状と同じく現場対応になると考えています。
市民	説明会の案内が遅い。学校は秋休みで３連休の中日であり、案内が届いたのが２週間前くらいとなっている。どのような経緯で案内を送付したのか？
市職員	市の内部での調整、議会への報告、学校現場への説明等を行いつつ、今年度中に見直し計画を作成するためのパブリックコメントの実施時期等を検討した結果、今回のようなスケジュールになってしまいました。周知期間が短くなった点は反省しています。本日の資料や概要などについては、後日、市ホームページに掲載する予定です。

市民	地域の懇談会で学校統廃合に関する説明が市長からあったと聞いたが、どのような内容か？
市民	昨年度、市長のタウンミーティングを吉岡地域で実施した。その際に、吉岡地域内の公共施設の再編と併せて、学校統廃合の今後について話を伺った。内容的には、本日の説明とおおむね同じものと記憶している。
市民	複式学級の基準の人数を再度教えてほしい。
市職員	小学校の場合、２つ以上の学年を合計して児童数が１６人以下となる場合、１年生を含む場合は合計して８人以下となる場合に複式学級を編成することとなっております。中学校の場合、学年にかかわらず、２つ以上の学年を合計して生徒数が８人以下となる場合に複式学級を編成することとなっています。
市民	適正化という言葉が多く出てきたが、学級数、全体の児童数、１学級の児童数などは何を基準に想定しているのか？適正規模を唱えることで、基準を満たしていない場合は正しくないという印象を受けるのではないか？
市職員	適正規模に関する基本方針で定める適正規模は各学年における学級数を基準とし、小規模な学校には小規模なりのメリットがあることも認識していますが、適正規模の学校環境を整えることで、子どもたちの能力をより伸ばすことができるのではないか、という考えに基づいています。
市民	中学３年生で統合となった場合、受験と重なり悪影響ではないか？統合の方針が決定した場合、私立中学などに移り、さらに生徒数が減ってしまうのではないか？
市職員	小学校では、統合前に時間をかけて統合予定校同士の児童が交流をし、統合後の影響を少しでも減らすようにしています。中学校でも時間をかけて環境を整えることになると考えています。生徒のストレスを軽減できるよう配慮していきます。
市民	小学校６年生くらいから交流したほうがよいと思う。
市職員	御意見として承ります。
市民	中学３年生で違う学校に行くことになるとストレスはあると思う。こうした場合、１年生の時点で違う学校に行くことは可能か？
市職員	指定校変更という手続があるので、検討している場合は、教育委員会学校教

	育課に相談してください。
市民	中学３年生の時に統合となった場合、受験という一大イベントを控えているため、３年生だけは統合から除外することはできないのか？
市職員	現時点で３年生を除外する検討はしていません。
市民	統合後の学校までの距離が５．５キロメートルの場合、スクールバスになるのか？
市職員	実際に統合する方針となった場合に具体的な検討を行います。
市民	今後、人口が増加するなど、状況の変化があった場合は、学校の統廃合自体が見直されることもあるのか？
市職員	人口増加については市として取り組んでいますが、他の部署の所管のため、詳細な説明はできません。取組の結果、学区内の児童・生徒数が増加するなどの変化がみられる場合は統廃合計画そのものを変更する可能性も考えられます。
市民	説明の中で新校設立準備委員会と統合準備委員会という言葉が出てきたが、中身は同じようなものか？
市職員	統合に向けた協議を行う組織について説明をする際は新校設立準備委員会としていますが、個別の学校の組み合わせにおいて統合を進めることとした場合の会議体の名称は統合準備委員会としています。
市民	統合準備委員会の委員構成はどのようになっているのか？
市職員	自治会長などの地域代表、保護者などのＰＴＡ代表、校長先生などの学校代表で構成されています。具体的な構成は、統合を検討する段階で決めていきます。
市民	給食検討委員会では保護者の人数が決められていて意見を反映しきれていない。統合に関してはどうか？
市職員	これまでの統合準備では、統合準備委員会の下部組織として校名などを検討する学校運営部会のほか、通学部会、ＰＴＡ部会などを設置し、検討しています。各部会では、保護者にも委員として就任していただき、御意見を伺いながら進めていくこととしています。

市職員	学校運営部会などでは保護者からの意見を取り入れて方針の一部を変更した例もあるので、そうした会議の場で御意見をいただきたいと考えています。
市民	子供たち同士のコミュニケーションを大切にしてほしい。市田小学校と吉見小学校は６年生が一緒に授業をする活動に取り組んでいる。吉岡小学校を含めた３校で同時に実施できるような検討もしてほしい。
市職員	各学校の予定もあるので、回数を大幅に増やすことはできませんが、検討してまいります。
市民	熊谷東中学校では久下地域などの子どもがバス通学をしていたことがあり、遅刻や欠席などの連絡が円滑でない場合があった。また、部活動で朝の集合がいつもより早い場合は保護者が送迎することがあった。教員のバス通学の管理も大変だった。 今後、学校統廃合する場合は自転車通学とのことだが、通学路としての整備が追い付かないと思う。
市職員	参考になるかわかりませんが、成田星宮小学校のスクールバスでは、各学年の登下校に合わせてスクールバスを出しています。 スクールバスには乗車確認のシステムを導入しており、これまでのところ円滑な運行になっていると聞いています。自転車通学をする場合の通学路整備は今後の検討課題と考えます。
市民	成田星宮小学校での統廃合の実例があるので、今後、こうした説明会を開催する場合、当事者となった保護者や先生にも出席いただいて、実際の統廃合の話を直接聞くことができるようになるとよいのではないか？
市職員	御意見として承ります。
市民	小川町では、自転車通学の安全確保のためスクールゾーンを設定した。吉岡地区では道も狭い場所もある。久下橋と国道４０７号がつながった場合、交通量も多くなることが想定される。熊谷市でもスクールゾーンを設定し、車が通学路に進入できないようにしてほしい。
市職員	現在のところスクールゾーンの設定の計画はありませんが、実際に統合することとした場合、警察が管轄のため、警察に協議することになると考えます。
市民	警察に協議した場合、どの程度の期間で設置されるのか？

市職員	具体的に協議を行ったことがないため分かりませんが、設置するための基準や手続方法などは今後確認します。
市民	中学３年生で統合となった場合、制服はどうなるのか？
市職員	まだ具体的に検討はしていません。参考になるかはわかりませんが、小学校の統合では、体育着は各校で使用していたものを継続して使用可とし、新入学児童用には標準体育着を設定しておりますが、基本的には自由としています。
市民	小学生の場合は基本私服だが、中学生は常時制服を着ている。センシティブな時期のため配慮が必要である。小川町では中学校が１つになる際の制服について、子供たちにアンケートをとって決めている。そうした配慮をしてほしい。 吉岡地域と大里地域の３小学校全体のイベントを実施して、コミュニケーションを図るとよいのではないかと思う。 スクールバスに限らず、利用できる地区であれば、路線バス通学の手法も取り入れてほしい。
市職員	御意見として承ります。
市民	資料の３ページに保護者説明会とあるが、今後、開催する予定があるのか？
市職員	資料の地域説明会は本日の会議が該当しますが、本日は計画の見直しについてのみのため、保護者説明会を開催することは検討していません。今後、実際に統廃合を進めていかなければならない状況になったと判断した場合は、改めてその旨の地域説明会を開催し、保護者説明会なども開催することになると考えています。
市民	万吉の端から大里中学校までは６キロメートルよりも長距離となると考えられ、江南中学校までは５．５キロメートルだった。学校までは坂などがあるが、江南中学校のほうが近い生徒もいる。そういったことも考慮しているのか？
市職員	実際に統合方針が出た際に具体的に検討いたします。
市民	中学校で自転車通学をした場合、雨の日や雪の日はとても大変である。実際に自転車通学をするには道が狭いところも多くある。そういった対策を考えているのか？
市職員	計画については、あくまでも統合予定のため、現時点では道路状況の全てをは把握しているわけではありません。実際に統合を検討する段階で保護者の皆

	様の意見等も踏まえて対策も考えてまいります。
市民	吉岡地区と大里地区の児童・生徒数を教えてほしい。 統合を検討する上で重要な情報だから、資料に掲載するべきだと思う。
市職員	吉岡小学校の児童は、２０２４年度２０３人、２０２９年度１２３人、市田小学校の児童は、２０２４年度１４６人、２０２９年度１０５人となる見込みです。 吉岡中学校の生徒は、２０２４年度１２８人、２０２９年度１１５人、２０３５年度５０人、大里中学校の生徒は、２０２４年度２１４人、２０２９年度２０７人、２０３５年度１１６人となる見込みです。 今後は、掲載するように注意いたします。
市民	本日の説明を聞いて感じたのは、統廃合ありきとなっている。小規模な学校には小規模なりのよさがあるので、統廃合しないで５校とも残すべきだと思う。
市職員	御意見として承ります。
市民	本日の会議の内容や資料については、ほかの学区の保護者にも周知してほしい。
市職員	本日の会議について、後日、市ホームページに資料と概要を掲載する予定です。
	５　閉会 本日いただきました御意見等につきましては、事務局で検討させていただければと思いますが、本日の説明会の終了後でも、学校統廃合に関して、御質疑、御意見等がございましたら、教育委員会教育総務課まで御連絡いただければと思います。 なお、本日の説明会の概要や資料につきましては、後日、市のホームページに掲載いたします。 それでは、以上をもちまして本日の説明会を終了させていただきます。 本日はありがとうございました。